

足立区都市計画マスタープランの改定の方向性（案）

別添資料
（報告1 関連）

足立区
これまでの

これまでの都市計画マスタープラン策定の視点

平成6年(1994年)時点
 ・人口増や経済成長の持続を前提
 ・足立区初の都市計画マスタープラン+13地域区分のまちづくり

平成18年(2006年)時点
 ・少子高齢社会や活力低下の懸念
 ・人口減少社会、活力と豊かさの実感、協働などの視点で改定

平成29年(2017年)時点
 ・東日本大震災、少子・超高齢社会、地球温暖化への対応
 ・防災減災(首都直下地震・水害対策)、メリハリのあるまちづくり(集約型都市構造)、環境配慮(低炭素)などの視点で改定/地域区分を5地域に再編

社会・経済情勢
の変化

前回改定時(2017年)から現在(2025年)までの約8年間の社会経済情勢の変化

①社会構造：
超高齢社会へ。労働人口の減少も顕著。団塊世代がすべて75歳以上に。2020年のコロナ禍を経て生活様式・働き方が変化。

②環境：
脱炭素・循環型社会への転換。2050年カーボンニュートラルが国家目標。エネルギー政策を再編。気候変動による猛暑・集中豪雨が日常化。

③災害：
西日本豪雨、熱海土石流災害、能登半島地震と大規模災害が頻発。豪雨災害など気候変動と南海トラフ地震、首都直下地震への備えが最重要課題。

④地域社会：
東日本大震災以降、地域の絆や助け合いが再評価。地方移住や二拠点居住にも着目が集まる。SDGs・ローカルSDGs(※1)・サーキュラーエコノミー(※2)が政策のキーワードに。

東京都市計画区域マスタープラン(2021.3)
 「あらゆる人々の暮らしの場を提供」「災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築」「ESGやSDGsの概念を取り入れた都市づくり」等

(※1)地域固有の資源を活用し持続可能な社会を目指す取組
 (※2)資源を再利用し循環する経済システム

足立区
のいま

2025年現在の足立区

これまでのまちづくりに一定の評価。さらなる磨き上げへ。
 ①住み続けたいが8割に。今後は、「ずっと」住み続けたいを8割に
 ②「防災、防犯、交通、住環境、都市開発」「障がい者、高齢者、学校教育(学びの場等)」の満足度を高める環境整備への要請

超高齢社会における若年層と高齢世帯への両輪対応と、ポストコロナ時代の多世代、多文化交流への環境構築へ
 ①増加する若年層と高齢者世帯(若年層流入を上回る高齢化)
 ②外国人の増加、多世代・多文化交流への対応

足立区基本計画(2025.2)
 ①協創の再構築、ウェルビーイングの向上とSDGsの推進、子ども・若者と進めるまちづくり等の「7つの理念」が追加
 ②施策に「地域のつながり、支えあい」「セーフティネット」「事業者・起業家支援」「DXの推進」等の視点が追加
 ③都の首都直下型地震の被害想定で、足立区は23区で突出した被害

改定の視点

ミクストコミュニティ/多種多様な機能融合

住む 働く 楽しむ つながる

都市の強靱性と回復力/地球環境負荷の軽減/地域の活性化/デジタル技術による快適な生活

激甚災害対策 地球環境との共生 協創の仕組み デジタル技術の活用

ウェルビーイング

まちづくりの目指すべき姿(たたき台)

～多世代・多文化が共生する社会に住み、働き、楽しみ、つながり、みんなで奏でるまちづくり～

若い世代をはじめ区民や事業者などがチャレンジできる仕組みを構築し、区外も含め様々な主体の協創により、地域の問題解決や価値創造・向上を推進(エリアマネジメント)

地球環境との共生

年齢、国籍、性別、障がいの有無などを問わず、快適に住み続けられる

多世代・多文化が共生する社会に住む

多様な場所で自分らしく働く

自宅や職場、お気に入りのサードプレイス等でやりたいことにチャレンジができる

激甚災害への対策

ハード・ソフトの両輪で災害対策を推進し、激甚災害にも耐える都市の強靱化を推進

既存ストックの省エネ化、新設・既存を問わない地域インフラや建物への再エネ導入、緑の保全・創出を通して、まち全体で環境への負荷を軽減し、地球温暖化防止に貢献

誰もが気軽に移動でき、居心地のよい環境で遊び・学び・買い物等を生産を通じてみんなで楽しめる

生涯を通じてみんなで楽しむ

地域に関わる様々な人が集い・憩い、居場所やつながりを持ち育てられる

SNSやAIを活用した情報の収集・共有や課題提起、ビッグデータを活用したデータ分析、自動運転などの先端技術の導入を視野に入れたサービス提供など、デジタル技術が区民等の生活の豊かさを高めることに寄与

デジタル技術

まちづくりの方針(仮)

①激甚災害に耐える防災まちづくり

- 燃えない、燃え広がらないまちの形成
- 震災による避難時の安全性向上
- 治水対策などによる水害への対応
- 復旧・復興・事前復興のまちづくり など

②未来を見据えた交通・交流拠点の整備とウォーカブルなまちづくり

- 複合型拠点の形成
- 交通・交流軸の形成
- 自動運転技術等を見据えた公共交通ネットワークの形成
- 歩行者・自転車利用者の安全性と快適性を両立したウォーカブルなまちの形成 など

③豊かな水と緑にめぐまれた地球環境にやさしいまちづくり

- 水と緑の保全と創出・ネットワークの形成
- 公園・緑地の整備
- 景観の形成
- 脱炭素まちづくりの推進 など

④多世代・多文化が共生し、魅力や活力があふれるまちづくり

④-1 誰もが安全・安心に暮らせるまち

- 都市基盤の整備状況に応じた安全・快適な市街地整備
- 自由に社会参加できるまちづくり
- 地域力の強化による犯罪の抑制
- 多様な住宅の誘導による住みやすいまちづくり など

④-2 活力ある地域産業の継承・創造

- 起業から「稼ぐ力」を伸ばせる企業への育成支援
- 商工農業の活性化まちづくり(観光含む)
- エリアデザイン計画の推進による拠点開発の展開 など

⑤多様性を力につなげる協創のまちづくり

⑤-1協創の仕組みを活用し、やってみたいが叶うまちづくり

- 区民や事業者が「やってみたい」にチャレンジできる環境づくり
- 多様な主体との協創を深め、発展を後押しするまちづくり など

⑤-2デジタルでつながり、暮らしの豊かさの可能性がひろがるまちづくり

- SNSやAIを活用した区民の興味がある情報の発信や、多様なニーズをつなげ合う仕組み
- ビッグデータを活用した来街者調査→回遊性の向上につながる政策立案 など